

# 健康危機管理対策専門委員会

(平成 28 年度)

## 健康危機管理対策専門委員会報告書

広島県地域保健対策協議会 健康危機管理対策専門委員会

委員長 桑原 正雄

### I. はじめに

広島県医師会が長年主体的に活動している感染症関連の委員会は広島県医師会感染症対策委員会と本委員会（県地対協健康危機管理対策専門委員会，旧感染委員会）がある。前者は主に県医師会会員の感染症医療や対策を支援する委員会として機能しており，後者は委員会名が示すようにパンデミック対策，予防接種を含めた感染症の拡大防止などの危機管理に対応するものとして活動している。

今年度は，両委員会での取り組みや現在検討している事業などについて情報共有を図るため，両委員会の合同委員会を開催した。

### II. 事業

#### 1) 合同委員会の開催

平成 28 年 9 月 12 日（月）に，広島県医師会感染症対策委員会と健康危機管理対策専門委員会の合同委員会を開催し，両委員会での取り組みや，現在検討している事業などについて情報共有を図った。

①広島県医師会感染症対策委員会の取り組みについて

感染症対策相談窓口の運営について，平成 27 年度より対象を「特別養護老人ホーム」から「全会員施設」に拡充したが，その後の相談件数は 1 件となっている。このことを鑑み，より相談しやすい窓口とするため，具体的な相談事例や回答者名（本委員会委員名）を広報ポスターに明示し，医師会速報や新型インフルエンザ等実地研修などを通して会員周知を行ったことが報告された。

次に，「広島県感染症だより」の発行について，あらゆる感染症の流行時や感染症に係る行事などにあわせて，主に会員向けに情報を発信することを目的に，A4・1 枚程度のチラシを不定期で発行することの提案があった。「NPO 法人ひろしま感染症ネット

ワーク」が原案を作成し，感染症対策委員会で承認の上，広島県医師会速報などに同封する方向性で検討した。委員からは，広島県医師会ホームページへの掲載などについて要望があり，広報の仕方については広島県医師会内で検討することとした。

「広島県感染対策支援ネットワーク（仮称）」については，昨年度より各市郡地区医師会単位での構築を進めており，この概要と進捗状況の報告があった。本ネットワークは，地域の基幹病院（院内感染対策加算 I 取得病院を想定）が有事の際に会員施設へ院内 ICT（感染制御チーム）を派遣の上，院内感染対策の専門的助言や指導を行うものである。平成 28 年 5 月 18 日に開催の市郡地区医師会感染症担当理事連絡協議会で概要を説明し，今般，地区医師会からの疑問点に対して Q & A を作成した旨，報告があった。委員からは，ICT 派遣に伴う費用負担のあり方について，各市郡地区医師会の参考となるよう事例を蓄積してほしいとの要望があった。今後は，本ネットワーク構築に係る協定書のひな形を作成の上，再度市郡地区医師会担当理事連絡協議会を開催し，可能な地区医師会から構築を進める予定とした。

②地対協 健康危機管理対策委員会の取り組みについて

学校欠席者情報収集システムの普及について，広島県より報告があった。本委員会開催時点で，14/23 市町の公立学校，全市町の県立学校に本システムが導入されており，私立学校・保育園へは，公立学校の導入などに伴い，随時導入の働きかけを行っているとのことだった。また，前回の健康危機管理対策委員会にて園医・学校医以外でも本システムを閲覧できるよう希望があったことから，本システムを運営している日本学校保健会と調整の上，医師会員用の共通 ID・パスワードを入手した旨，報告があった。また，当日出席の委員に対して，本システムでは学校側が欠席状況などのデータを入力することが

前提となっていることを説明し、市郡地区医師会などから導入していない保育園・学校へ働きかけていただくよう呼び掛けた。今後は、市郡地区医師会の感染症および学校保健担当理事宛てに、ID・パスワードの会員周知依頼を行うとともに、導入拡大への協力依頼を行うこととした。

また、蚊媒介感染症リーフレットの作成について説明した。本委員会で過去に作成したダニ類媒介感染症リーフレットは、各市町行政や医療機関などで配布され好評を博しており、同様に、近年問題となっている蚊媒介感染症についてもリーフレットを作成することを提案した。本リーフレット案では、デング熱、ジカ熱、チクングニア熱、マラリアについて、広島県の発生状況や治療、予防、確定診断の方法などについてまとめており、委員から寄せられた意見を反映した上で、委員長一任で発行することが了承された。

薬剤耐性菌対策について、国の「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」では、2020年までにヒト抗微生物剤の使用量や薬剤耐性率などの削減目標が示されており、抗微生物剤使用の動向調査や適正使用など国の取り組み方針が示されている。県内でも地域毎に薬剤耐性率が異なることから、地域別のデータを各医療機関で閲覧できるシステムが必要との考えを説明し、今後、国で実施されるサーベイランスにおいて、地域別データがフィードバックされるかどうかを確認の上、本委員会としての取り組み方針を検討することとした。

また、平成27年度から本委員会のもとに新たに設置した予防接種WGについて、活動状況の報告があった。平成27年度に「広島県統一の定期予防接種接種率 推奨算定式」を作成し、今般、本算定式に基づいた平成27年度の各市町別接種率を算出した。市

町間の比較により効果的な接種勧奨方法を検討するため、今後は対象ワクチンを絞って継続調査を行う予定である旨、説明があった。委員からは、接種対象時期を過ぎた児への行政措置予防接種や、未接種者への個別勧奨、子ども予防接種週間での啓発など、接種率向上のための提案があった。市町によって予算の問題など事情も異なることから、接種率向上に向けた協議は各市郡地区医師会と市町の間で行っていただくこと、また本結果を市郡地区医師会へ開示するにあたっては、取扱い上の注意点を十分に説明する予定であることが確認された。

### ③その他

広島県より広島県医師会が委託を受け例年開催している新型インフルエンザ等実地研修について情報共有した。近年、本研修の内容が座学中心となっており、パンデミック時に各地区で対応できる実践的な研修内容となるよう、今年度は研修内容のモデル案を示したことが報告された。

### 2) 蚊媒介感染症リーフレットの作成

上記合同委員会でも協議を行った通り、近年デング熱やジカウイルス感染症（ジカ熱）などの蚊媒介感染症が問題となっていることを鑑み、医療者や県民に向けたリーフレットを作成することとした。本リーフレットは、主にデング熱、ジカウイルス感染症（ジカ熱）、チクングニア熱、マラリアについて、感染経路や症状、治療、県内の患者発生状況などをまとめたものである。

本リーフレットは、広島県地域保健対策協議会のホームページ（<http://citaikyo.jp/>）からダウンロードできるため、県内の蚊媒介感染症の普及などには是非活用いただきたい。

添付 蚊媒介感染症リーフレット

# 海外で気をつける蚊媒介感染症

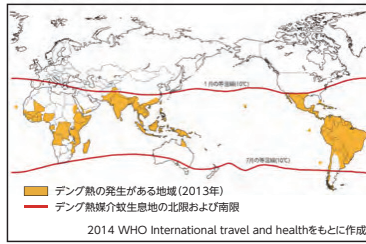
デング熱, ジカウイルス感染症 (ジカ熱), チクングニア熱, マラリア



## デング熱, ジカ熱, チクングニア熱, マラリアとはどんな病気ですか? どのようにして感染するのですか?

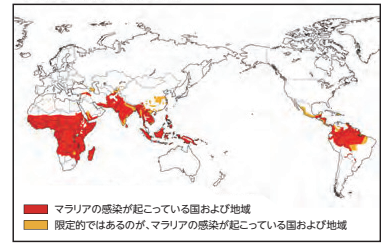
デング熱, ジカ熱, チクングニア熱は, それぞれデングウイルス, ジカウイルス, チクングニアウイルスというウイルスの感染により発症する病気です。マラリアは, マラリア原虫という寄生虫により発症する病気です。

これらの病気は, 蚊が媒介することによってヒトに感染を起こします。デングウイルス, ジカウイルス, チクングニアウイルスはネッタイシマカやヒトスジシマカによって, マラリアはハマダラカによって媒介されます。これらの蚊が生息している地域で流行しています。



デング熱のリスクのある国

(出典: 厚生労働省検疫所 FORTH)



マラリアのリスクのある国

(出典: 厚生労働省検疫所 FORTH)

※ジカ熱やチクングニア熱についても, 同様の地域での蚊の感染に気をつけてください。



## デング熱, ジカ熱, チクングニア熱, マラリアの症状はどのようなものですか?

デング熱, ジカ熱, チクングニア熱, マラリアの症状は, 次のようになります。

	デング熱	ジカ熱	チクングニア熱	マラリア
潜伏期間	3~7日	2~12日	2~12日	1~4週間 (原虫の種類により異なる)
発熱	++++	+	+++	+++
関節痛・筋肉痛	+++	+	++++	++
四肢の浮腫	-	+	-	-
腹痛・下痢	-	-	-	++
紅斑	++	+++	++	-
後眼窩痛	+	++	+	+
結膜充血	±	+++	+	-
リンパ節腫脹	++	++	++	-
白血球/血小板減少	+++	+	++	+++
出血症状	+	-	-	-

(出典: Med Mal Infect. 2014 Jul; 44(7): 302-307を改変)

感冒やインフルエンザのような症状に似ていますが, 紅斑や結膜充血などの特徴的な症状もあります。

デング熱では, 高熱と血小板の著明な低下が現れます。

チクングニア熱では, 長引く関節痛, 筋肉痛があります。

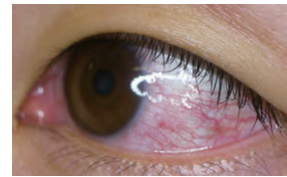
ジカ熱では, 結膜充血, 全身の皮疹の頻度が高率です。

マラリアでは, 特徴的な発熱と血小板減少がみられます。特に3日熱, 4日熱マラリアでは発熱に周期性があり, 3日に1度, 4日に1度の発熱はマラリアの可能性がります。最重症の熱帯熱マラリアでは高熱が続きます。

**発熱, 血小板減少, 皮疹等の症状を認めた場合には, 海外渡航歴の聴取が重要です。**



デング熱の皮疹

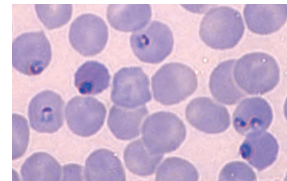


ジカ熱の結膜充血

写真提供 (デング熱, ジカ熱, チクングニア熱): 国立国際医療研究センター病院 国際感染症センター 忍那賀志氏



チクングニア熱により右肩が上がらない



末梢血塗抹ギムザ染色標本の熱帯熱マラリア原虫

写真提供: 川崎医科大学附属川崎病院 見手倉久治氏

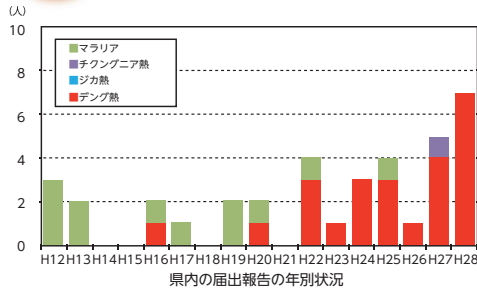


## 治療はどのように行うのですか?

デング熱, ジカ熱, チクングニア熱は対症療法が中心となります。重症型デングとなった場合には, 厳重な体液量管理, 出血に対する輸血などが必要となります。マラリアには, 抗マラリア薬である, マラロン® (アトパコン・プログアニル), キニマックス® (キニーネ) 等が使用されます。重症型デングやマラリアは集中治療室を備えた施設での治療が推奨されます。



## 広島県内の患者の発生状況は？



※すべて国外感染例（輸入症例）です。  
 ※チクングニア熱は平成23年2月1日から、ジカ熱（ジカウイルス感染症）は平成28年2月15日から、感染症法に基づく全数報告対象となる。  
 ※平成28年は6月までの報告数。

平成28年6月末日現在、デング熱、チクングニア熱、マラリアの県内の届出報告は、いずれも国外で感染した患者（輸入症例）で、県内での感染はありません。また、平成28年2月15日から感染症法で全数報告対象と定められたジカウイルス感染症（ジカ熱）の報告はありません。しかしながら、近年、これらの感染症の流行地への旅行者等の増加により届出報告数は増加しており、平成28年は上半期で7例と、過去の年別報告数を上回っています。

デング熱、ジカ熱、チクングニア熱を媒介するヒトスジシマカが、県内でも生息していることを考えると、平成26年のデング熱の国内集団発生のように、こうした蚊媒介感染症が県内で発生する可能性はあります。

今後、県内からの流行地域への旅行者や、流行地域からの県内への旅行者が増加することが見込まれることから、マラリアも含め、蚊媒介感染症の国内外の発生状況に対する注意が必要です。



## 予防はどうすれば良いのですか？

デング熱、ジカ熱、チクングニア熱については、ワクチンや予防薬はありません。流行地の情報と旅行先での蚊対策が重要になります。そのためには、長袖長ズボンで皮膚の露出を避ける、電池式携帯蚊取り器を携帯する、皮膚の露出部や衣服に虫よけ成分のDEETまたはイカリジン（Picaridin）を含んだ虫よけ剤を使用するなどの対策を行います。また、ホテル等では網戸を使用したり窓を閉める、蚊取り器や蚊帳を使用するなどの対策も考えましょう。なお、日本で市販されている虫よけ剤のDEET成分は10%程度で、持続時間はおよそ2時間です。海外に行かれる場合には、海外でDEET30%程度の虫よけ剤を購入し、使用することをお勧めします。日本でも、平成29年に数社からDEET30%の虫よけ剤が販売される予定となっています。

マラリアに関しては、蚊の対策に加え、マラロン®やメファキン®の予防内服が行われますが、保険適用にはなりません。



ヒトスジシマカ

(写真提供：広島県立総合技術研究所保健環境センター)



## これらの病気を診断した医師は保健所へ届出してください

デング熱、ジカウイルス感染症（ジカ熱）、チクングニア熱、マラリアは、感染症法で定められた全数報告対象の4類感染症です。診断された場合は、**ただちに**保健所への届け出が必要です。



## 確定診断はどこでできるのですか？ その際の検体採取方法と注意点は？

デング熱患者、ジカ熱及びチクングニア熱患者については、まず管轄保健所に検査について相談してください。その時点で検査が必要と判断された場合は、地方衛生研究所や国立感染症研究所において遺伝子検査や抗体検査が実施されます。

遺伝子検査のための検体は、急性期の血液（EDTAで凝固防止した血液や血清）、発病後日数が経過している場合は尿（5ml程度）も採取してください。

抗体検査のための検体は、急性期（発症後5日程度のもの）の血清と、必要であればペア血清（発症後3週間以上経過したもの）を採取してください。採取した検体は冷蔵で保存し、速やかに検査機関に提出してください。

なお、デング熱については、患者の集中治療に対応できる医療機関での入院患者に限り、保険適用での検査（血液中の抗原及び抗体検査）が可能です。

マラリア患者については、血液塗抹で赤血球中の原虫を確認します。塗抹標本で検査可能な施設に御相談ください。

リーフレットに関するお問い合わせ：広島県地域保健対策協議会事務局（広島県医師会内、TEL 082-568-1511）  
 その他の相談、お問い合わせ：最寄りの保健所・保健センターまで

広島県地域保健対策協議会 健康危機管理対策専門委員会 / 広島県感染症・疾病管理センター（ひろしまCDC）  
 広島県立総合技術研究所 保健環境センター / 特定非営利活動法人 ひろしま感染症ネットワーク

広島県地域保健対策協議会 健康危機管理対策専門委員会

委員長 桑原 正雄 広島県感染症・疾病管理センター

委員 伊豫 浩司 広島県立総合技術研究所保健環境センター

上田久仁子 広島市健康福祉局保健部保健医療課

大毛 宏喜 広島大学病院感染症科

大本 崇 広島県医師会

海嶋 照美 広島県健康福祉局健康対策課

片桐 則明 安芸地区医師会

小山 祐介 福山市医師会

坂口 剛正 広島大学大学院医歯薬保健学研究院ウイルス学

田中 知徳 福山市保健所

田中 純子 広島大学大学院医歯薬保健学研究院疫学・疾病制御学

田淵 文子 広島県健康福祉局健康対策課

近末 文彦 広島県保健所長会

津谷 隆史 広島県医師会

内藤 雅夫 呉市保健所

中島浩一郎 庄原赤十字病院

新田 康郎 新田小児科医院

野間 純 広島県医師会

藤上 良寛 広島県臨床検査技師会

増田 裕久 安佐医師会

望月 満 呉市医師会

森 直樹 広島市医師会

柳田 実郎 舟入市民病院

横崎 典哉 広島大学病院検査部

渡邊 弘司 広島県医師会